

---

# 旋律を奏でる蒼天

天弥藍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

旋律を奏でる蒼天

### 【Nコード】

N2990L

### 【作者名】

天弥藍

### 【あらすじ】

ラステル・クロード

彼が新米兵の軍人として生きる物語

彼は特別な事は望まなかった

だが平凡な日常は少しずつ崩れさる

彼は人と出会った

彼は人に憧れそれを目標にした

そして彼は目標を持ち空へ羽ばたく

## 第1章 く始まりの蒼空く

(前書き)

王道80%(さらに現在浸蝕中……)

軍人物語のほがが学園物語っぽくなってどうしようかと思う今日この頃です。

ちなみにこれの書き方は主人公視点の心理描写もあれば情景描写みたいな書き方とまったくもってめちゃくちゃです……

正直描写って何? って感じに書いてますがそれでも見てくれる人がいれば幸いです!

## 第1章 く始まりの蒼空く

汚れない青空

彼は何を想い

彼は何をしたのか

彼は君に

君は彼に

私達は歩みを止めてはいけない

進む先に希望があるから

### とある詩人の詩

いつもと変わらない快晴の空、季節は春だ。眩しすぎてとても目を  
開けてられない程に太陽が照っている。

そんな空の下で今日も彼等はいる。

「あもうダメだ!!」

一人の金髪の青年は何かを諦めたのか地面に倒れていった。

「おいおい……もうへばったのか？」

金髪の青年に話しかけた同い年くらいのもう一人の黒髪の青年はそう言った。

「き……ゼイ……きつ……死ぬって」

金髪の青年は今にも死にそうなほど息切れをしていた。

「まあへばるのはいいけど……そんなことしてたら「コラァァ!!」そこサボるんじゃない!!」

倒れている金髪の青年にもう一人の黒髪の青年が話しているときなり20代半ばの茶髪の男性が二人の青年に向かって怒鳴ってきた。

「やつやば……んじゃ俺捕まりたくないし逃げるわ!死ぬなよ!」

「あつ………テメエこんな時だけ……!!」

倒れていた金髪の青年はいきなり立ち上がり瞬速のスピードで逃げていった。

「くっ……あいつ……逃げ足だけ一人前だな」

20代半ばの茶髪の男性は逃げ去って行った金髪の青年を見つめな

がら呟やいた。

「……………(さて気付いてないようだし……………逃げるか……………)」

逃げきれてない黒髪の青年は今逃げようとしたら突然背後から殺気を感じた。

そして……………

捕まった。

「ふうなんとか逃れたな……………」

先程一目散に逃げた金髪の青年はそう呟いていた。

「レイの奴捕まったかな……………」

俺はラステル・クロード

俺は数ヶ月前魔術学園を卒業して現在は軍に所属している。今はいつもの朝の基礎体力訓練をしている。

まあ俺は生憎特別な能力もなくいわゆる平凡な力しか持たないから朝から走るだけの体力は持ち合わせていないのでこうしてサボってるだけだ。

あっそうそう、さっき俺と一緒にいた奴は

織雅しきみや 矜れいって奴で俺と同期の奴である。

レイは東洋の方からの出身であるが何かとだな……………うまがあつって感じかな？

ついでに言うときさっき怒鳴っていたのが…

「みつけたぞ？」

一瞬俺は空耳だと思ったがそれは後ろを振り向いたことにより間違いだとわかった。

「げげっ!!!? ゼブラ教官っ!!!?」

このさつきから怒鳴ったりしてる怖いこの人はシャルム・ゼブラ、俺達新米を育成する教官だ。とりあえずうるさい、厳しい、怖いと三拍子だ。

「貴様レイからすべて聞いたぞ……独房でもあれば入れたいものだ」  
ゼブラ教官はニコニコしながら近づいてくる。はっきり言って怖い。自分の生命に危機を感じた俺は再度逃走を試みた。だがそれは判断ミスとなってしまった。

「ほほう、懲りずに逃げるとは……いいよう度胸だな」  
逃げる先にはいつの間にかゼブラ教官が立ちはだかっていた。

「近いうちに貴様専用の独房を作ってぶち込んでくれようか」

……死刑宣告された気分だ……。  
そして俺は訓練そっちのけで数時間ゼブラ教官の説教をくらうハメになってしまった。

+

「あゝやっとお昼になった!」

俺は盛大に言いながら食堂の一つの席に座った。



「お昼なつた」

じゃねよ！俺まで何でとばっちりくらわなきゃなんねんだよ!？」

俺の隣にレイは怒鳴りながら座った。

「イヤイヤ…俺のせいではないだろ？」

俺は冷静にコーヒーを飲みながら言い返す。

「まあその話は置いてクロード…お前は明日の事聞ってるか？」

先ほどまでの形相とは打って変わって落ち着いた様子で話し出した。

「ん？明日？明日なんかあるのか？」

レイは、

「あつ……コイツ知らねえな」

つて顔で俺を見てため息をついた。

なんかムカツク……

「明日どうやら新人教育もかねてギルドの任務をギルドの奴等と合同でやるみたいだぜ？」

「うえマジかよ？」

俺はやる気なさそうな返事で返した、というかやる気がないのだが。ちなみにギルドというのは16歳以上でギルドの試験に受ければ入れる職業である。

魔術学園を卒業した人は軍へ行くのが多いがたまにギルドへ行くの

人もいる。軍は基本他の国との戦争などででる多人数での行動をするが、ギルドは少人数から動き、落し物の搜索や魔物討伐などを主にする。

軍とギルドの違いはそんなところである。

「まあ全員が行くんじゃなく何人かが選べて行くことになってるらしいからまずお前は選ばれないだろうな」

「そっか！！ ならいいや！！ よかったよかった！」

俺を見てレイはまたもやため息をついた。

「お前：何のために軍に入ったんだよ？」

もはや呆れ口調である。

「別に：俺ってそこまで優秀な頭も身体能力も持ってるわけじゃないし、一応ギルドに志願をしたんだが落ちてしまったしな取り付く島がここしかなかった感じ？」

俺は笑いながら言った。レイも特に反論することもなく「ふん…」とだけ言って少し沈黙が続いた。

第1章 く始まりの蒼空く

(後書き)

近日更新予定

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2990/>

---

旋律を奏でる蒼天

2010年10月21日23時44分発行